



第8回通常総会開催

日時：2023年5月27日(土)13:10~14:00
場所：幕張メッセ国際会議場

- 第1号議案 2022年度事業報告及び決算報告の件
- 第2号議案 2023年度事業計画及び収支予算案の件
- 第3号議案 役員選出の件

以上、すべての議案が可決決定されました。

2022年度事業報告

こども・若者未来基金

■給付について

2022年度は、30人43件の応募があり、内4人12件の辞退がありました。その結果、26人31件に対し、9,290,000円の支援を決定しました。(支援の詳細は、表1のとおりです)



■緊急サポート SOS

2019年に受けた遺贈を原資とし、募集期間を設定した通常メニューとは別枠で、公的な支援が届きにくい若者へ10万円を上限としてできるだけ早く支援を行います。この趣旨に賛同して下さった企業から昨年に引き続き、30万円の寄付をいただきました。2022年度は7件70万円の給付をしました。

【表1】2020~2022年度給付決定状況

(単位：円)

メニュー	2020年度		2021年度		2022年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
くらしスタート	10	2,490,000	12	2,600,000	13	3,130,000
くらしサポート	10	5,652,000	7	4,860,000	9	4,060,000
資格サポート	1	250,000	1	150,000	0	0
まなびサポート	7	1,400,000	15	2,700,000	8	1,600,000
入学金つなぎサポート	0	0	4	2,000,000	1	500,000
合計	28	9,792,000	39	12,310,000	31	9,290,000
緊急サポートSOS	5	500,000	3	300,000	7	700,000

■寄付募集について

・目標1,200万円に対し、実績は8,789,958円。(3生協からの寄付金は、6,565,508円)

寄付者数は、延べ6,243人。多くの方が寄付にご参加くださいました。

・200万円を目標とし、10月18日から90日間クラウドファンディングを行いました。結果は、71人の方から725,000円の寄付をいただきましたが、目標額を大きく下回りました。

■シンポジウム

1回目は、柏市の京北ホールで自立援助ホーム希望の杜金坂さんと千葉県の里親さんに伴走支援についてお話しいただきました。2回目は、千葉商工会議所第2ホールでオンラインと併せて開催し、沖縄大学名誉教授の野本三吉さんをお招きして講演会を開催しました。

食料衛生用品支援

基金による金銭的支援の他に、昨年末に引き続き7月と12月、これまで基金を給付し、伴走者を通して希望のあった若者に、食料衛生用品支援を実施しました。7月は、千葉市社協から郵送料として寄付金3万円と飲料品を、フードバンクからは食料品やマスクなどの衛生用品の提供をしていただきました。3生協からは、食料品の提供をしていただきました。7月は47名に支援を渡すことができました。12月も千葉市社協からは飲料品と食料品を、フードバンクからは食料品やマスクなどの衛生用品の提供をしていただきました。3生協からは、食料品の提供をしていただきました。12月は40名に支援を渡すことができました。

里親家庭支援について

・千葉県里親大会の事業として10月22日(土)に「知ってほしいな、里親のこと」を千葉県教育会館でオンラインと併せて開催し、98名の参加がありました。第1部は、基調講演「出会いこそ、生きる力」というタイトルで俳優のサヘル・ローズさんにお話をいただきました。第2部の里親体験談は、千葉県里親会会長の岩橋泉さんをコーディネーターに2世帯の里親さんのお話を伺いました。質問コーナーは、会場およびチャットでの受け付けでしたが、1部2部ともに多くの質問があり、活発なやり取りができました。

・里親養育包括支援(フォスタリング)事業のひとつとして、千葉市里親サポーター事業を受託しました。里親家庭の委託児童・実子に日頃の学習の補助を行う学習サポーターを福祉、教育関係の大学に募集し、応募した学生たちに里親制度について理解を深める研修を行い、11月から3件の希望する里親家庭に学生を派遣しています。

貧困家庭・要支援家庭の子どもの支援事業

千葉県内で子ども関連の活動をしている団体と連携し、「ちばこどもおうえん広場2022&オレンジリボンキャンペーン」の事務局として千葉市子ども交流館アリーナでの開催に携わりました。「千葉県子どもの人権懇話会」の開催も兼ね、千葉県の子ども・若者の状況についての報告、子ども・若者によるトークセッション、同世代の若者によるダンスパフォーマンスを行いました。

会員について

2022年度目標数及び会員総数(右記の図参照)

	個人	目標		会員総数	
		人数・団体数	口数	人数・団体数	口数
運営会員	個人	16人	20	13人	15
	団体	5団体	54	5団体	54
おうえん会員	個人	150人	170	141人	209
	団体	10団体	12	7団体	9

2023年度事業計画

社会的養護の必要な子どもの自立支援

■こども・若者未来基金

- ・こども・若者未来基金による、自立のおうえんを継続します。
- ・自立援助ホーム、アフターケア事業者、児童養護施設、里親家庭などつながりのある子どもや若者を伴走者(支援者)とともに支援していきます。
- ・これまでの支援の携帯を継続しつつ、伴走者支援の枠をつくります。伴走者支援の枠をつくるにあたり、自立援助ホーム等の意見を聴く機会を設けます。
- ・こども・若者未来基金の寄付募集目標は、12,000,000円とします。
- ・クラウドファンディングなどを活用しながら、広く県民に普及していきます。
- ・9月を寄付募集のキックオフ月間として、こども・若者未来基金の趣旨に賛同いただいている県内3生協(パルシステム千葉、生活クラブ生協、なのはな生協)や他団体と情報を共有し、それぞれの団体に合った方法で寄付を呼びかけます。
- ・8月に基金交流会を開催します。

■食料衛生用品支援

昨年に引き続き、基金でつながった子ども・若者への食料衛生用品支援を実施します。

■その他の自立支援

2020年度から2022年度まで推薦した学生に引き続き、2023年度は新たに2名の大学生を「パルシステム給付型奨学金」に推薦し、計6名の伴走を行います。施設職員と連携を取りながら、おうえんだんスタッフ複数体制で対応します。

社会的養護の必要な子どもの自立支援

千葉県内で子ども関連の活動をしている団体と連携し、啓発のイベントを実施します。

里親家庭支援について

ちばこどもおうえんだんは、里親家庭の支援について設立趣旨で謳っています。また千葉県の里親支援機関として位置づけられています。これまで不足していた里親家庭への支援を充実させ、社会的な認知度が増すことは、社会的養護を受ける子どもたちの健やかな成長に繋がっていきます。これまでの経験を活かし、千葉県・千葉市の里親関連の事業にも積極的に応募や参加し、関わっていきます。

啓発・広報事業

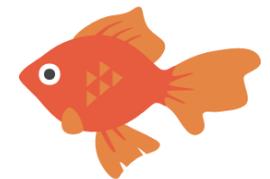
- ・社会的養護下の子どもたちの自立について考えるきっかけとなり支援につながるシンポジウムなどを開催します。
- ・ニュースレターやSNSでの情報発信を通じて、ちばこどもおうえんだんの活動や情報を社会へ広く伝えます。

会員拡大について

- ・認定NPOを継続するためには、3,000円以上の寄付者(おうえん会員(賛助会員)・寄付者)が年平均100人必要です(審査対象期間は2019年度~2023年度)。それをクリアできるように、年間を通じて会員の継続を促し、新たな会員の入会を目指し呼びかけていきます。
- ・寄付者の寄付控除について一層の周知を図ります。



今年の総会は会場での開催でした。



【表3】目標数

会員種別		目標人数・団体数	目標口数
運営会員	個人	16人	20
	団体	5団体	54
おうえん会員	個人	150人	170
	団体	10団体	12